広報横芝
この広報は各家庭にもれなく配布します
発行・所千葉県山武郡横芝町横芝役場　（電話）32・249・339

椎名登氏町長に就任

二月二十日行なわれた町長選挙に当選した椎名登氏は、同二十六日初登庁して、前町長伊藤績夫氏から一切の事務引継を受け町長に就任した。そのあと全役場職員に対し就任の挨拶と訓示を行った。

新町長語る

抱負や方針について、いま発表することは差控えたい。これからまだ勉強したいこともあるから。ただ言えることは観光開発とか、道路整備とか、環境整備などいろいろ要望があるが、何と言っても財政と見合せて推進する必要があり、また、これまで部分的に建設、設備してきたものをも含めて、総合した設計による町造りに持って行かねばならないと思っている。

これについては、目下事務部局で総合開発計画を策定中であるから、その確定を待って実施に移して行きたい。

何れにしても町政の執行に当っては、公平無私の精神をもって誠心誠意努力し、活気ある繁栄横芝町の実現に献身する所存である。

〃余生を酪農事業に〃

前町長　伊藤績夫氏談

十二年間、町の行政をお預かりして参りまして、兎も角職責を全うすることができましたことは、ひとえに議員さん方初め町民の皆様、それに役場職員達の御支援と御協力によるところと、深く感謝しています。

私の性格から時に皆さんに不満反感の念を抱かせたことがあったと思いますが、しかし私は徹頭徹尾公明正大に、誠意と正直を信念としてやり通し、聊かもやましいこと、後ろ暗いことはしておりませんでした。この点につきましては大いに誇りとし、明朗な心境で退任することができます。

新町長椎名さんは、県会議員をされた御経験からしましても、充分な抱負と手腕を持っておられますので、町は益々明るく発展することと思います。

私はこれから自分の好きな酪農事業に専念し、ヨーロッパの先進諸国のやり方を参考として、日本人の食生活の面に微力を尽すつもりです。

農協上堺支所が落成

超近代的な鉄筋建て

横芝農協上堺支所が新築落成して去る二月十五日から営業を開始した。

これまで新島荒場にあった支所は、建物も老朽し、位置も片寄っていたので、今回北清水入間の県道沿い、駐在所手前の田圃中に移転新築されたもの。

前庭を芝生に広くとって、つつじ、いぶき等の植え込みをあしらってあり、しゃれた鉄筋コンクリート平家建の、正面には窓のない変った型カラーテレビが備えつけてある。

様式の建物、総建坪五十八坪一余、工費九五〇万円、備品調度品も一二五万円入れたという。敷地は七四〇坪余。

玄関を入ると十坪位のパブリックホール、その左側が集会室、右側が事務室で、信用部と経済部にわかれて執務している。

パブリックホールは社交の場であり、待合室であり、喫煙、雑談の場所であって、ソファが置かれ、大集会室は南面が全面硝子張りのまことに明るい会議場で十七坪余、ゆうに五十人は着席できる広さである。

正面に上堺産業組合創始者伊藤友三郎氏の、一米平方大の肖像写真が掲げられ、室内の単調さを引締めている。

新しくて気持のよい故ばかりでもあるまいが、組合員は連日有効にこの「おれたちの集会所」を利用しているという。上堺の農業界はここを中心としていよいよ発展向上するものと期待される。

小さいながらも十年後の時勢に適合するように、科学的な配慮と、合理性を充分に入れて設計した事務所様式であると、農協幹部は自慢している。（写真は新装なった農協上堺支所）

議会だより

昭和四十三年一月二十七日付、同一月三十一日召集のもの

◎第一号議案　千葉県市町村公平委員会共同設置規約の全部を改正する規約制定について

◎第二号議案　松尾町と横芝町との境界変更について（横芝町の耕地蓋整備により、鳥喰下及び三島地区と松尾町武野里との境界を変更するもので、鳥喰下地区では六三九平方米減、三島地区では一、一三三平方米増、差引四九九四平方米減（一四九坪強）横芝町が増歩されたわけである。

◎第三号議案　町の区域内の字区域の変更について（鳥喰及び三島の耕地蓋整備に伴う、その区域の字名を変更するもの）

◎第四号議案　議会の議員報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について（報酬月額を、議長一万八千円、副議長一万五千円、議員一万三千円にそれぞれ改正するもの）

◎第五号議案　特別職の職員の給与に関する条例の一部改正について（役場三役の給料を、町長八万円、助役七万円、収入役六万五千円にそれぞれ改正するもの）

◎第六号議案　横芝町教育委員会教育長の給与及び旅費等に関する条例の一部改正について（教育長の給料を六万一千円に改めるもの）

◎第七号議案　一般職の職員の給与に関する条例の一部改正について（一般職の職員の給与額を七、五％引上げ改訂するもの）

◎第八号議案　昭和四十二年度横芝町一般会計補正予算の議定について（主として報酬給与の改訂による不足額を補てんするため才入才出それぞれ四五六万六千円を追加し才入才出予算の総額をそれぞれ二億六、五四六万七千円とするもの）

◎第九号議案　昭和四十二年度横芝町有線放送電話特別会計補正予算の議定について（職員の給与改訂による不足額を、予定工事変更による余剰財源で補てんするもので才入才出予算総額に変更なし）

◎第十号議案　昭和四十二年度横芝町老人ホーム特別会計補正予算の議定について（職員の給与改訂と収容者の処遇費支弁のため才入才出それぞれ三六万八千円を追加し、予算の総額を才入才出それぞれ一、一二万九千円とするもの）

◎第十一号議案　昭和四十二年度横芝町国民健康保険特別会計補正予算議定について（職員の給与改訂と療養給付費の増加を支弁のため、才入才出それぞれ五二七万五千円を追加し、予算総額を才入才出それぞれ五、三三五万一千円とするもの）

◎第十二号議案　町有財産の処分について（町有地北清水の山林二万坪を第一ビニール会社に売却するもの）

◎第十三号議案　町有財産の処分について（町有地北清水の山林約四千坪を山武郡市衛生組合に売却するもの）

以上のうち第十二号議案までを審議可決したが、時間切れのため会期を四日間延長し、二月三日まで休会二月四日再開、第十三号議案を継続審議の結果、原案を撤回することに決定した。

この第十三号議案は、し尿処理場用地に関するもので、今回の「提案撤回」で右用地問題はふり出しに戻ったわけである。

町界変更、補正予算など十二議案を可決

〇学校だより〇

小学新入生一六五名　中学卒業生二六五名

今年の小学校入学児童の数は、昨年度より三十五名も少ない一五六名で、十年前の三十三年度の半数になっている。学校別に見ると次のとおりである。

	上堺小	大総小	横芝小	計
本年度	33	25	98	156
昨年度	40	34	117	191
33年度	88	70	162	320

また小学校を卒業する生徒数は

	上堺小	大総小	横芝小	計
男	25	30	60	115
女	32	28	72	132
計	57	58	132	247

で、そのまま横芝中の入学者数となる。

横芝中の卒業者数は二六五名（男一一五、女一五〇）でこのうち進学希望者は八五％の二二四名、就職希望者三三名、待機組八名になっているという。

なお各校の卒業式及び入学式の日どりは次のとおり。

	卒業式	入学式
横芝中	3月16日	4月6日
横芝小	3月19日	4月5日
上堺小	同右	同右
大総小	同右	4月8日

（教育委員会）

皇居へ勤労奉仕

大総婦人会の有志三十一名は、去る三月四日から七日まで、皇居の勤労奉仕に参加した。

消防団長に市原茂雄氏

消防団長椎名登氏の町長就任に伴って、新たに市原茂雄氏が二月二十八日附で団長に任命された。

なお副団長五名は二月一日にさかのぼって次の各氏が発令された。

伊藤　勝衛　浅野　満
池沢　務　高橋伊三郎
石井　春雄

（敬称略）

陸　海　空
自衛官募集
詳細は役場総務課まで

有線加入者の異動

有線放送電話加入者の異同をお知らせいたします。下記のとおりですので、ご面倒でもお手もとの番号帳の加除訂正をお願いします。

部	落	名	氏	名	番号	備考
長		倉	治	吉孝	31 — 13	退入
		2	信	枝吉	31 — 13	脱
		川	恒	郎雄	39 — 6	新規加入
上	古	〃	井野尾	サマ一	48 — 17	〃
		町	藤	光六	48 — 15	〃
		〃	川	孫春	50 — 18	〃番号変更
		〃	辺	誠之	52 — 2	移転、〃
		〃	林		52 — 2	退入
		〃	田		64 — 18	脱
		〃	中		67 — 7	新規加入
		〃	藤		67 — 17	〃
東		3	平	清助		〃
			押			〃
			伊			〃
			実			〃
			越			〃
			渡			〃
			小			〃
			島			〃
			丸			〃
			伊			〃

成東警察署に行政相談室設置

警察行政に関する苦情、要望、問合せなど、気軽るに相談に応ずる相談室が設けられた。署の次長ほか相談員が、皆さんの権利利益を保護し、それらを更に行政の面に反映させて行こうというねらいのものであるという。

相談にあがる事がらは警察関係全般ということであるが、二、三挙げて見ると次のとおりである。

○暴力行為の取締り関係
○盗みやさぎの予防、検挙について
○青少年の非行の問題
○警ら、巡回、家庭訪問について
○交通取締り関係のこと
○行政処分に関すること
○警察職員の態度行為

× ×

同警察署では、受けた相談に対しては相談者の身になって懇切に応待し、名誉人格を尊重するは勿論、不利益になるような扱いは絶対にしない。従がって秘密は厳守し、正しく的確な処置をとるので、安心して気軽に相談されるよう希望している。

町長選

投票率九一％

町長選挙は二月二十日に行われたが、最も身近な選挙でもあり投票者の出足は極めて順調で、午前九時には早くも三七％を上廻る投票率を出す投票所もあった。

開票は午後七時半から始められ、九時には完了し次のとおり確定した。

四、一六六票　椎名　登
二、八五二票　吉岡　豊

投票数及び投票率は下表のとおりである。

町長選挙投票結果表　<42.2.20>

投票区	有権者数 男	有権者数 女	有権者数 計	投票者数 男	投票者数 女	投票者数 計	投票率
第1	783	926	1,709	741	866	1,067	94.03
第2	830	995	1,825	723	900	1,623	88.93
第3	1,037	1,244	2,281	932	1,137	2,069	90.71
第4	383	452	835	357	416	773	92.57
第5	498	570	1,068	459	521	980	91.76
計	3,531	4,187	7,718	3,212	3,840	7,052	91.37

鶏豚ふんを飼料に
養豚家に耳よりな話

排せつ物変じて飼料となる……こう聞いただけでは「そんな馬鹿な…」「感じの悪いこと言うな」と叱られるかもしれない。だが終いまで読んでもらいたい。

家畜飼料については、前号広報でルーサンの栽培についてお知らせしたが、こんどは鶏豚糞を加工して飼料をつくる方法のあることをご紹介しよう。

近ごろ自給飼料製造機とでもいうべき「鶏豚糞醗酵装置」なるものが出廻りはじめたが、当町のある農家が昨年これを導入して、相当の成績をあげている。

一トンの飼料をつくるのに要する材料は、米ぬかとフスマ、落花生のカラを粉末にしたものを、それぞれ等量づつ合せて二〇〇kg、これに問題の豚の生糞三〇〇kgと醗酵剤を加えてかき混ぜ、熱を加えて醗酵させ、さましてから更に配合飼料五〇〇kgを加えてかきまぜればできあがり。

豚は好んで食べてくれるし、その上、厚脂肪も防げ、下痢もしないという利点だらけの飼料だという。

配合飼料のトン当り三万七千円に比べて二万三千円ですむから、差額は実に一万四千円、つまり四〇%のコストダウンが可能となる。通常、豚の生産費のうち飼料代が約五〇%を占めているというが、一頭当りの飼料代が一万円かかるとすると、六千円ですむ勘定になる。

だがしかし、この装置と工場設備に約一〇〇万円は必要とある。もう一つ、だがしかし、この程度の設備投資は、飼育頭数によっては極めて短期間に償却できる計算が成り立つという。

ともあれ、食肉の需要は年ごとに伸びを見せているが、これを満足させるため外国からの輸入を余儀なくされているそうであるが、日本人の胃袋を充たすのに、なにも外国産に依存することはあるまい。外貨節約の上からも牧草その他の方法で格安飼料を自給して生産コストを下げ、畜産事業興隆の途を講究すべきではなかろうか。（産業課長寄）

発酵飼料の1トン当り材料と生産費

材料名	単価	数量	金額
	円	kg	円
配合飼料	37	500	18,500
米ぬか	20	60	1,200
フスマ	29	60	1,740
落花生殻粉	10	60	600
豚生糞	0	320	0
醗酵剤	200	(4,5袋)	900
燃料	18	(10)	180
計		1,000	23,120

交通事故の賠償示談は まず県の相談所へ

▽交通事故の示談の方法
▽交通事故の損害賠償手続
▽車輌の登録などの手続
▽交通法令の解説や指導
▽交通妨害などの苦情処理
▽運転免許の取り方
▽その他交通問題一般

など交通のことならなんでも皆さんのご相談に応じます と、千葉県交通相談所では言っています。

県交通相談所は先般、千葉市吾妻町三丁目二八番地（千葉市清防署前十字路の角）（電話二七局四八二〇番）へ移転したとのことです。

この相談所では四人の相談員がいて、日曜、祭日を除いた毎日、午前九時から午後五時まで相談に当っているほか、週一回弁護士が出張して専門的なことを受持っています。相談料はもちろん一切無料で、書面や電話での相談にも応じていますが、ごく簡単なもの以外は面接相談が望ましいとのことです。そのほかにも県内各地で毎月一回くらい、出張相談所を設けていますが、その日時や場所はもよりの警察署にお問合せ下さいとのことです。

とにかく自動車、オートバイのはんらんで「交通戦争」といはれるような、物すごい最近の交通事情では何時災害にあうかわからないし、万一事故にあった場合、この相談所を利用して損をしないようにしたいものです。（県警だよりから）

運転者も歩行者も飛出し 横断に気をつけましょう

寒い冬の季節から解放され、花見など行楽のシーズン新入生が新しい服にランドセルを背にして、楽しそうに登校する時期ともなると、統計表を見るまでもなく、交通事故は増加することが考えられます。毎日報道される交通事故ニュースを聞くにつけ、見るにつけ国民の総てが事故防止に、真剣に取組んで行かねばならないと痛切に感じます。

車を運転する人に

横断歩道では必らず一時停止して、歩行者を安全に通行させることは勿論、横断歩道以外の場所でも、常に道路の状況に応じた安全運転を励行し、最近増加の傾向にある歩行者のとびだしに十分気をつけること。

春先の道路は軟弱なところが多く、舗装が完全でないところでは、あまり道路の端により過ぎないこと、狭いなる道路では無理な追いこしは絶対にしないこと気候がよいとつい居眠りしがちですが、居眠りは疲労と密接な関係があるので、前日の労れを持越さないよう心がけること酒のみ運転は絶対にやらないこと

道路歩行者に

昨年は県内で四、八八〇人の死傷者を出し、その内歩行中の事故死者一七〇人で全体の死者の四〇%を占めています。こうした実状から、今年の最重点として「歩行者保護」を掲げていますが、一般歩行者も近くに横断歩道があれば、必らずそれを利用するように努め、死亡事故の原因となりやすい、車の直前直後の横断、横断禁止場所の横断、路上へのとびだし等をやめ、進んで交通ルールを守る心構えを持つことが大切です。

特に新入園、入学の児童を持つ家庭では、通学や遊びの行き帰りの道路を、子供にわかりやすく教え、通学路でも危険な場所があれば、その場で安全な通行方法を教えてやる配慮が欲しいものです。

昭和四十三年
交通安全年間スローガン

運転者へ
あなたは今　安全運転をしていますか

通行者へ
さあ青だ　いやもう一度
右ひだり
児童たちへ
あそびません　こわいくるまの　とおるみち

成人式に参加して

牛熊　桑原　君江

なつかしい顔ぶれに、久しぶりのバスの旅。一月十五日、全国民がこの私達のために祝って下さる成人式。何とすばらしい事でしょう。

車窓から次々と走り去る変りばえのない田園風景も、うすい汚れた街並も何となく美しく見え、又、朝からアルコールに酔ったのか、この日の喜びの為か勢いよい男性軍のわけのわからぬ歌も、ずれた調子も快よく聞えるのはどういう事でしょう。

身も心も踊り、積もり積もった話に花が咲きクラス会のような気分にもなっていたバスの中、そして今まで考えて来た事を、再び誓った玉前神社、じっと正座し、足のしびれを気にしながらも身心共に清めたいと、ときれとぎれにしか聞こえぬ神主さんの声に耳を澄ますが、漠然としかわからなかった。

でも私は私なりに考えた。「成人」、大人になったという事がどんなことであるか、日本社会構成の一メンバーとして私達を認めてくれた社会の先輩達に恥じぬような人間になりたいと、この時を迎えて誰れもが決意するであろう「責任」という人間としての義務、一コの社会人としての義務の一つを自分なりに果して行きたいと思う。

又、今までは何やかやと父母や周囲の人々に頼り、甘えてきた私であるが、もうそうはいかないようである。顔の魅いのも、姿形の悪いのも、父母のせいにしていた、種が悪いからだと。

誰かが云っていた、二十才をすぎればもはやそれは両親行川アイランド。町長さんは初め沢山の人から祝辞をいただき、その中でチラリチラリと舞ってきた白いものが尚私達を祝福してくれるようでもあった。

空腹さにいらいらしながら一時間も待たされた昼食も、この日の思い出。

帰りのバスの中でのなごやかさ、ガイドさんの存在も忘れ、相変わらずの歌声とおしゃべり、あまりにも時間のたつのが早すぎたようで、なごりがつきずそのままクラス会へ。飾り気のないその場で、五年の才月もほんの一瞬だったような、変わったなあ！と感ずる友も話してみれば皆同じ。土に生きる人、職場で活躍する人、趣味をいかしている人、それぞれ道は違っても成人となって考える事は皆同じである。

農業に真剣に取組む彼らは農家へのお嫁さんが少ないと暗い顔をする。

都会での生活のむずかしさ東京の空気にさらされたあの人も、やっぱり故郷はいいなあという。職場での楽しさ、苦しさ、いろいろ話合った。勤めの関係上、ほとんど同年輩の人と話合う機会のない私。成人式に参加して本当に「よかった」「楽しかった」と思う。今は皆に「ありがとう」と云いたい。（教育委員会提供）

ふる里の話題

機転の地蔵（上堺）

上堺小学校の近く、横芝町と蓮沼村の境付近に箕輪堰という小さな水門があるが、そこから田圃の中を小学校の方面に通ずる砂利路を歩いて行くと、左手の道端に、五、六本の杉木立に囲まれた小さな祠があり、付近の人達はこの祠を「機転の地蔵」、「切られの地蔵」と呼んでいる。

祠の格子戸を開けると、玩具や、木や竹で作った、刀の模形が「所せまし」と納められているのが異様に目に付く。

相洲浦賀港に突然現われた四隻の黒船に日本国中が湧き返っている嘉永の頃、上総国屋形村の田圃路に、病に苦しむ浪人風の武士があった。容赦なく照り付ける夏の陽差しに、武士の額は渋茶色に焼け、最早汗も涸れ果て、路傍の草を掻きむしるように握りしめては、喉き込む姿が、哀れというよりは悲惨にさえ見えた。

丁度その頃同じ街道を足早やに通りかかった旅の武士があった。

倒れている武士の傍を一度は通り過ぎたか思い返したように足を戻した。「武士は相見互いか」とつぶやきながら、病気の武士を抱き起し涼しい木影に運び、近くの農家から水を運び、自分の腰の印籠から薬を取り出して与えるなど、手厚く介抱を続けた。

此の旅の武士は、自分の兄を討って遠電した仇を探し求めて、国元を出立したが、上総国屋形村、今切の松林に動皇と称する浪人者が大勢出没しているという噂を頼りに「もしや、その中に……」と淡い望みをかけて、武蔵、下総を経て、ついや刻か前に上総、下総の境を流れる栗山川を越えて来たばかりであった。

返り討ちの悲話を秘める「切られの地蔵」祠

幸運、厄払いを祈念する奉納木刀のかずかず

先を急ぐ身には病に倒れる武士を撫っている暇は無かったはずであったが、ふところに在る主君から賜った仇討免許状は武士としての自覚を呼び戻させて、かくては行き倒れのうき目を見ようとする同僚の介抱をさせたのであった。

約二刻（現在の四時間）……ようやく正気に戻った病の武士は、面識もないこの行きずりの旅の武士が、自分を救ってくれた恩人であることを知ると、泪を流さんばかりに感謝の心をこめてお礼を述べ、「自分は、若気の誤りから同輩を殺して国を立ち退いたものである。いま苦しみながらも、その同輩の顔に悩まされていた。これも天の報いであろう。」と言いながら、自分の名を姓名乗って旅の武士は仰天した。その姓名こそ、自分か長い歳月の間たずね歩いた仇と同じ名であった。

「何と、それではもしや」と生国をたずねると、まぎれもない兄を刺し殺して立退いた仇であった。

「憎い仇、いまその仇が死の境をさまよっていたのを自分が救ったというのは「立派に仇を討て」という、神のお告げ、亡兄の加護であろう」と考えて、名乗りかけて、切りかかった。病気であったとは言いながら相手も武士、しかも兄を討ち果した程の腕前であり、一度助かった生への執着もあったのか、なかなか手強く勝負の程はきまらなかった。そのうちどうしたことか病気であった武士が切り込む太刀を受けた旅の武士の太刀の目釘が抜けて、相手の太刀を真向に受けてしまっては致方なく、がっくりと腰を落して倒れた。

「しまった！すきを見て逃げようとしていたのに……」病を助けられた武士の声は悲痛であった。虫の息の下から、残念！無念！武士の情だ！首をはねてくれ……」とあえぎあえぎ叫ぶ旅の武士に、「許して下されよ…こんなつもりでは……」と病が再びぶり返したのか、喉き込みながら、うずくまっていたが、何時の間にか何処えともなく、立ち去って姿はなかった。その跡には、旅の武士が葬られ、墓石の代りに目釘の折れたままの大、小が立てられ、その前には、別の大、小が供えられていた。

恐らく武士の世のはか無さを知ってか、時世を推憶してか、再び武士という社会に戻らない決心をしたであろう此の病気の武士の、旅の武士に対する供養の心持が忍ばれた。

上堺の人達は、その塚に地蔵尊を建て香華を手向けていたが、何時か「討つも討たれるも、すべてその運命に期するものだ。病気で倒れた武士は往き倒れるところを救われ、そのため仇討の難をのがれることが、出来たのは、本当に運機に恵まれた人だ」とむしろ、その運の良さを羨やむようになり、何か幸運を求めようとする時、厄を払おうとする時等には、木製や竹製の刀を納めて祈願するようになったという。

いまでも祠の前には四季折々の野花等が供えられ、線香の煙が絶えない。